深い学びのために

学習のポイントの解答例

1　**「大事を思ひ立たん人」にとって、支障となるものはどのようなものであるか、まとめてみよう。**

【答】身の回りにある世の中の雑事、肉親、周囲の人々。

▼ポイント▲　同じようなことが繰り返し述べられているが、思い切って大づかみにする。事柄と人事という観点で考えるとよい。

2　**「少し心あるきは」（三二ページ7行）とは、どのような人であるのか、話し合ってみよう。**

【答】出家・入道しようと、軽い気持ちで思っているような人。

▼ポイント▲　「すこし」というところがポイントとなる。主題は「大事を思ひ立つたん人」で、その中でも「少し心ある」ということだから、「軽く考えている」となる。出家・入道は俗世間といっさいの関わりを絶つことだから、本来はいい加減な覚悟ではできないことである。そこを意識して解答したい。

言葉と表現の解答例

1　**本文中の近所の火事の例は、表現上どのような効果を上げているか、考えてみよう。**

【答】近所の火事という具体的に想定しやすいものを置くことによって、作者の出家・入道する際の支障となるものの説明が分かりやすくなり、身近なこととしてとらえられる効果がある。

▼ポイント▲　小事を捨てて大事に付くべきことは頭の中では理解できても、実際にはなかなかできるものではない。そのことを十分理解している作者は近所の火事の例を出す。この例ならば、どのように行動するか誰にでも考えやすいからである。

言語活動の解答例

1　**「少し心あるきは」は、なぜ「みなこのあらましにてぞ一期は過ぐめる。」（三二・8）のか、考えてみよう。**

【答】出家に対してあまり強い志を持っているわけではないので、ちょっとしたことで決心がゆらいで、そちらを優先し、出家が後回しになる。つまり、出家しようという心積もりを持ち続けるだけで実際の出家に至らないで、一生が終わるから。

▼ポイント▲

（意図）「大事を思ひ立たん人」に対応している「少し心あるきは」を正確に理解することで、「大事を思ひ立たん人」についての理解を深める。

（手順）

１「少し心あるきは」がどのような人かを的確に説明する。

「少し」を適切な現代語に置き換える。「大事を思ひ立たん人」との対照が明らかになるように説明してみる。

２「みなこのあらましにてぞ一期は過ぐめる」の理由を考える。

まず、「このあらまし」とは何かを捉える。さらに、「一期は過ぐめる」から出家を志していながら、出家が実現していないことに留意する。

（ゴール）

問題になっていることの説明はできるであろう。それが出家のことであることも頭で理解することは難しくない。そのうえで、出家ではなく、たとえば予復習のような身近なことにもこれが当てはまることに気付かせ、自分のことを振り返ることができるとよい。

（畠山　俊）